

施工説明書

総 合 盤

小型総合盤 / PX 小型総合盤 / RX 小型総合盤

NYE163AK・NYE217AK

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工するには、消防設備士（甲種第4類）の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合は責任を負い兼ねることがあります。
- 火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

付 属 品

- 施工説明書（本紙）……………1枚
- 取扱説明書……………1枚
- 総合盤の場合**
- 取付用なべ小ネジ（M5×40）……………4本
- 取付用なべタッピンネジ（M4×16）……………6本（差動式分布型感知器取付用）
- 角型ブッシュ……………2コ
- 小型総合盤の場合**
- 取付用なべ小ネジ（M4×40）……………4本

内器品番一覧表

総合盤	P型1級	地区ベルあり	NYE163AK
	P型2級	地区ベルあり	NYE216AK
小型総合盤	P型1級	地区ベルあり	NYE164AK・NYE164KPA(防雨型)
		地区ベルなし	NYE168AK・NYE168KPA(防雨型)
	P型2級	地区ベルあり	NYE217AK・NYE217KPA(防雨型)
		地区ベルなし	NYE218AK・NYE218KPA(防雨型)
PX 小型総合盤	P型1級	PX発信機・地区ベルあり	NYE165AK・NYE165KPA(防雨型)
		コモン単独型発信機・地区ベルあり	NYE166AK・NYE166KPA(防雨型)
RX 小型総合盤	P型1級	地区ベルあり	NYE170AK・NYE170KP(防雨型)
		地区ベルなし	NYE171AK・NYE171KP(防雨型)

施工上のご注意

- 商品の分解・改造は絶対にしないでください。故障の原因となります。
- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。

〔電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化不良をおこし、誤報の原因となります。〕



- 工事、施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因となります。
- 配線方法に示す機器以外の機器に接続する場合は、当社にご相談ください。不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
- 防雨型の場合、凹凸の激しい面に取り付けしないでください。水が入り故障の原因となります。
- 体育館などでボールが総合盤・小型総合盤に当たるおそれがある場合は、パナソニック(株)製プロテクタ(オプション)(別売)を取り付けてください。
- 次のような場所には設置しないでください。(誤動作や故障の原因となります。)

防雨型以外の場合

- 直射日光のあたる場所
- 水滴・水蒸気・ホコリなどがかかる場所
- 衝撃・振動などの影響を受ける場所

防雨型の場合

- 水蒸気・ホコリなどがかかる場所
- 衝撃・振動などの影響を受ける場所
- 周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- 汚水や海水のかかる場所

安全上のご注意

■必ずお守りください

警告



必ず守る

受信機の電源(AC 100 V)を切り、電池を取りはずした状態で施工する。
活線工事は感電・故障の原因となります。

施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、強固に取り付ける。
安易な取り付けは脱落によるケガの原因となります。

PX 小型総合盤・RX 小型総合盤をご使用の場合

- この商品は、接続する前にアドレス設定器 ※ (別売)でアドレス書き込みをしてください。アドレス書き込みを行わないと動作しません。また、設置した小型総合盤のアドレス番号を変更する場合は、アドレス設定器で設定してください。詳細は、アドレス設定器に付属の取扱説明書を参照してください。
- ※ PX 小型総合盤(PX発信機)の場合：アドレス設定器(NSY452)
※ PX 小型総合盤(コモン単独型発信機)は、アドレス設定が不要です。
RX 小型総合盤の場合：アドレス設定器(NSY501またはNSY452)
- PX 小型総合盤は、自動試験機能付の受信機(PX)に接続できます。
※ PX 小型総合盤(コモン単独型発信機)は、GR型受信機への接続が可能です。
- PX 小型総合盤(コモン単独型発信機)・RX 小型総合盤をご使用の場合は、電話機で通話中に雑音が発生し聞き取りにくい場合があります。電話線(T、TC)と伝送線(L、C)または伝送線(SA、SB)は、別シースの配線をしてください。

施工後の確認方法

1. 受信機のトラブル灯が点滅していないことを確認する。
(詳細は、受信機に付属の取扱説明書を参照してください。)
2. 表示灯が点灯していることを確認する。
3. 発信機の保護板を押して、ベルが鳴動することを確認する。
 - 総合盤P型1級・小型総合盤P型1級・PX 小型総合盤・RX 小型総合盤の場合は、発信機の確認灯(赤)が点灯します。
4. 総合盤P型1級・小型総合盤P型1級・PX 小型総合盤・RX 小型総合盤の場合は、通話確認をする。
 - ① 発信機の電話ジャックに電話機(受信機に付属)のプラグを差し込む。
 - 受信機の電話音響が鳴ります。
 - ② 受信機の点検用スイッチカバーを開け、電話ジャックにプラグを差し込み発信機と通話する。
 - 受信機の電話音響は自動的に止まります。
 - ブッシュトーク機能のある受信機は、点検用スイッチカバー内の通話スイッチで通話ができます。
(詳細は、受信機に付属の取扱説明書(点検・施工される皆様へ)を参照してください。)
5. 平常時の状態に戻す。
 - ① 発信機の保護板を元に戻す。(詳細は、付属の取扱説明書を参照してください。)
 - ② 受信機の復旧スイッチを押して、平常時の状態に戻す。
(詳細は、受信機に付属の取扱説明書を参照してください。)

配線方法

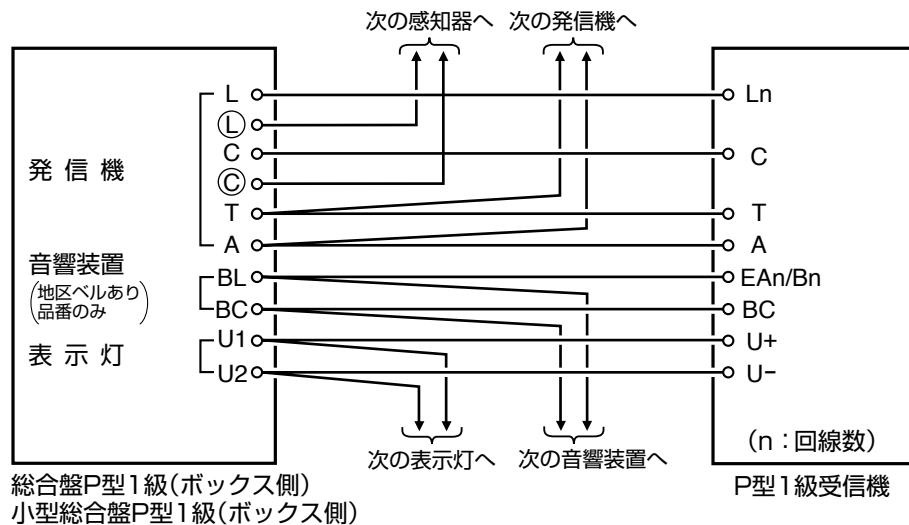


●音響装置の詳しい接続方法または小型総合盤の接続可能個数については受信機に付属の施工説明書を参照してください。
●端子ネジは、確実に締め付けてください。故障の原因となります。

総合盤・小型総合盤の場合

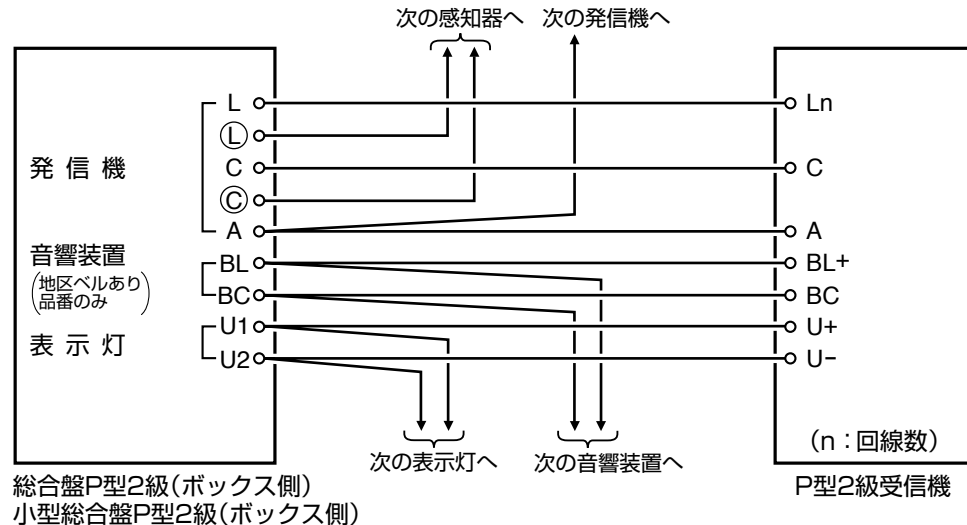
■P型1級受信機との接続

●NBP150, NBP151など



■P型2級受信機との接続

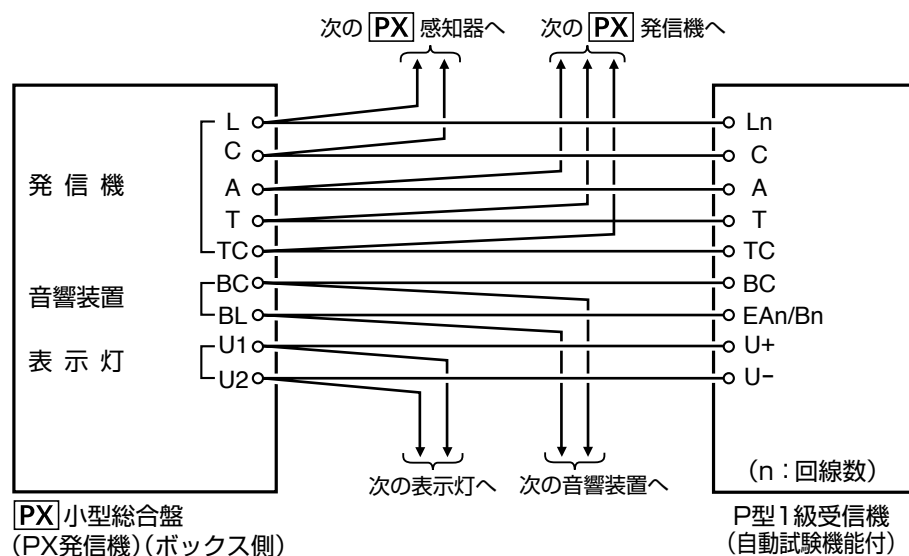
●NBP234, NBP235など



[PX] 小型総合盤(PX発信機)の場合

■P型1級受信機(自動試験機能付)との接続

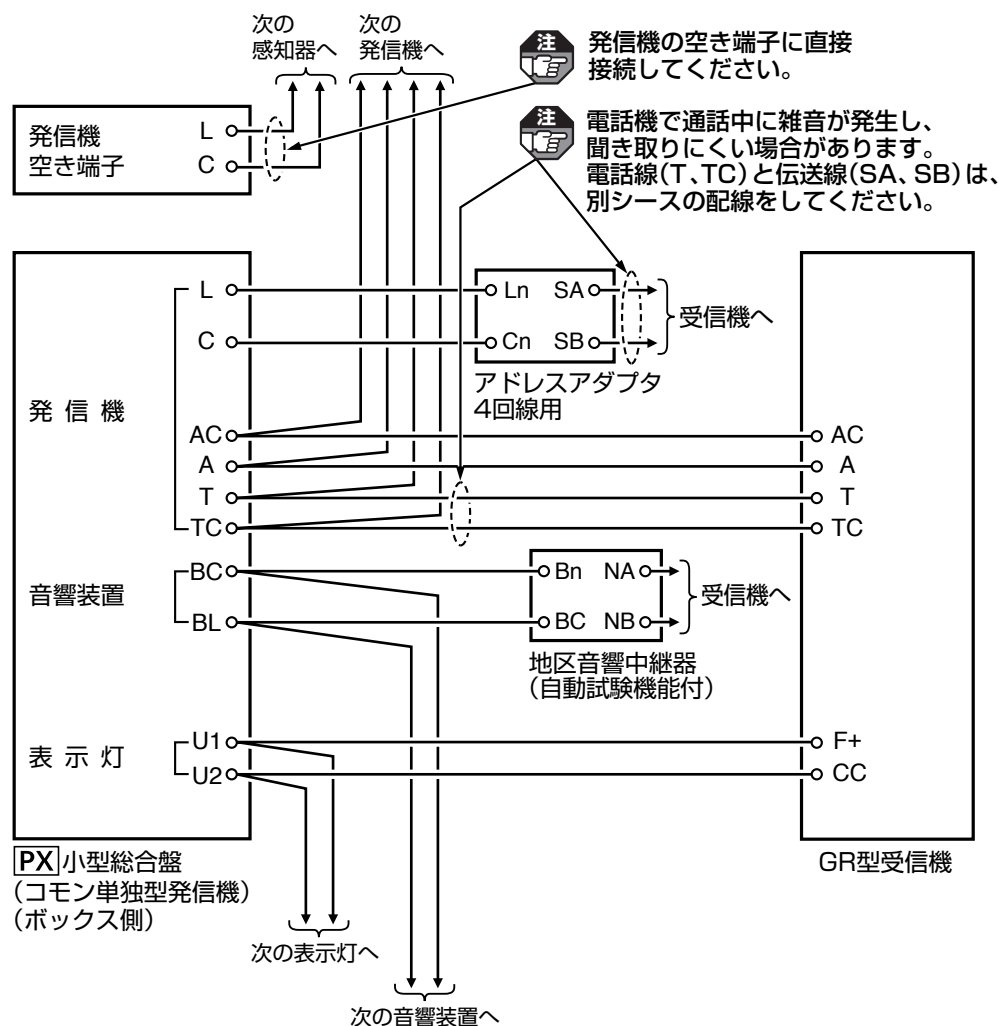
●NBP152, NBP153など



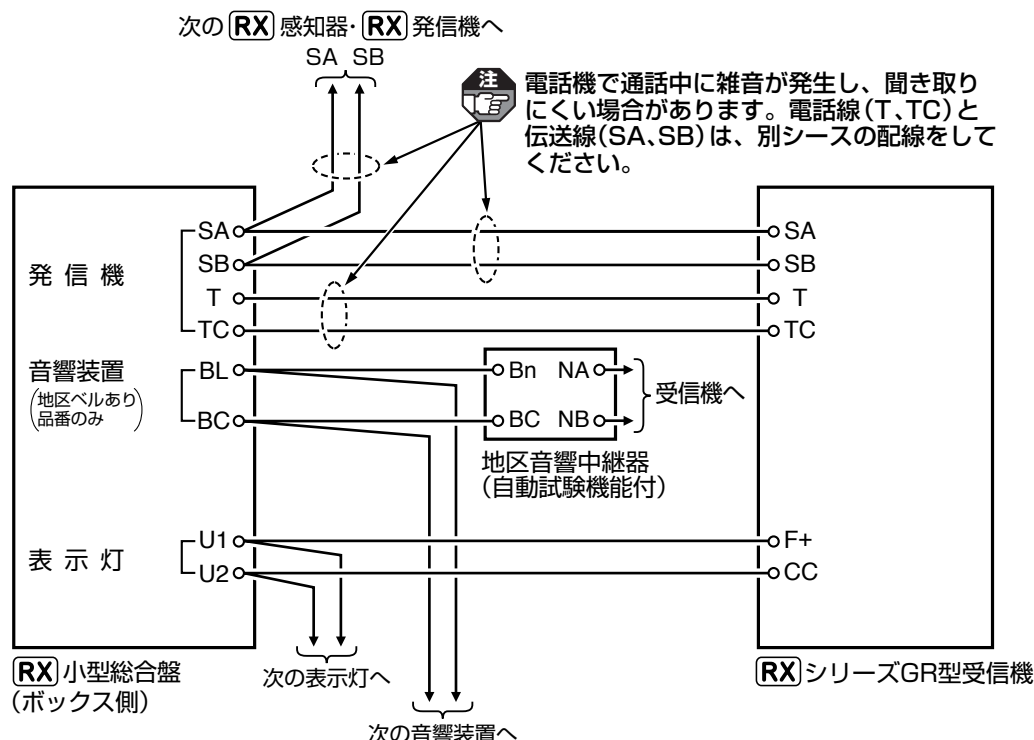
[PX] 小型総合盤(コモン単独型発信機)の場合

■GR型受信機・P型1級受信機(自動試験機能付)との接続

●[RX] シリーズGR型受信機, NBP152, NBP153など



[RX] 小型総合盤の場合



総合盤の取付方法



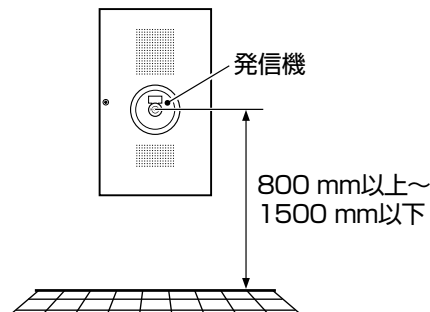
総合盤は、横向きに取り付けることはできません。

露出取付の場合

1 取付位置を決める。



発信機の保護板が床面より800 mm～1500 mmになるように取り付けてください。



2 右図に示す露出ボックス(屋内用)(NYY948EJ)
(別売)のノックアウトをあける。

3 取付用プラグを打ち込む。

- プラグボルト (M4) (市販品) の打ち込みと、配線を
引き込む位置は取付寸法図を確認してください。
- 中央上部のプラグボルトは露出ボックス取り付け
時の位置決め用としてご利用ください。
- 露出ボックスの底上げは、12 mmです。

4 入線をする。

5 上下方向を間違わないように、露出ボックス内の上↑マークを上にして、露出ボックス(屋内用)(NYY948EJ)(別売)を取り付ける。



床面に対して、垂直になるように取り付けてください。傾斜角度が大きいと本体の扉の開き方が悪くなる場合があります。

6 露出ボックス(屋内用)(NYY948EJ)(別売)に取付用なべ小ネジ(M5×40)(4ヵ所)を取り付ける。**図1参照**

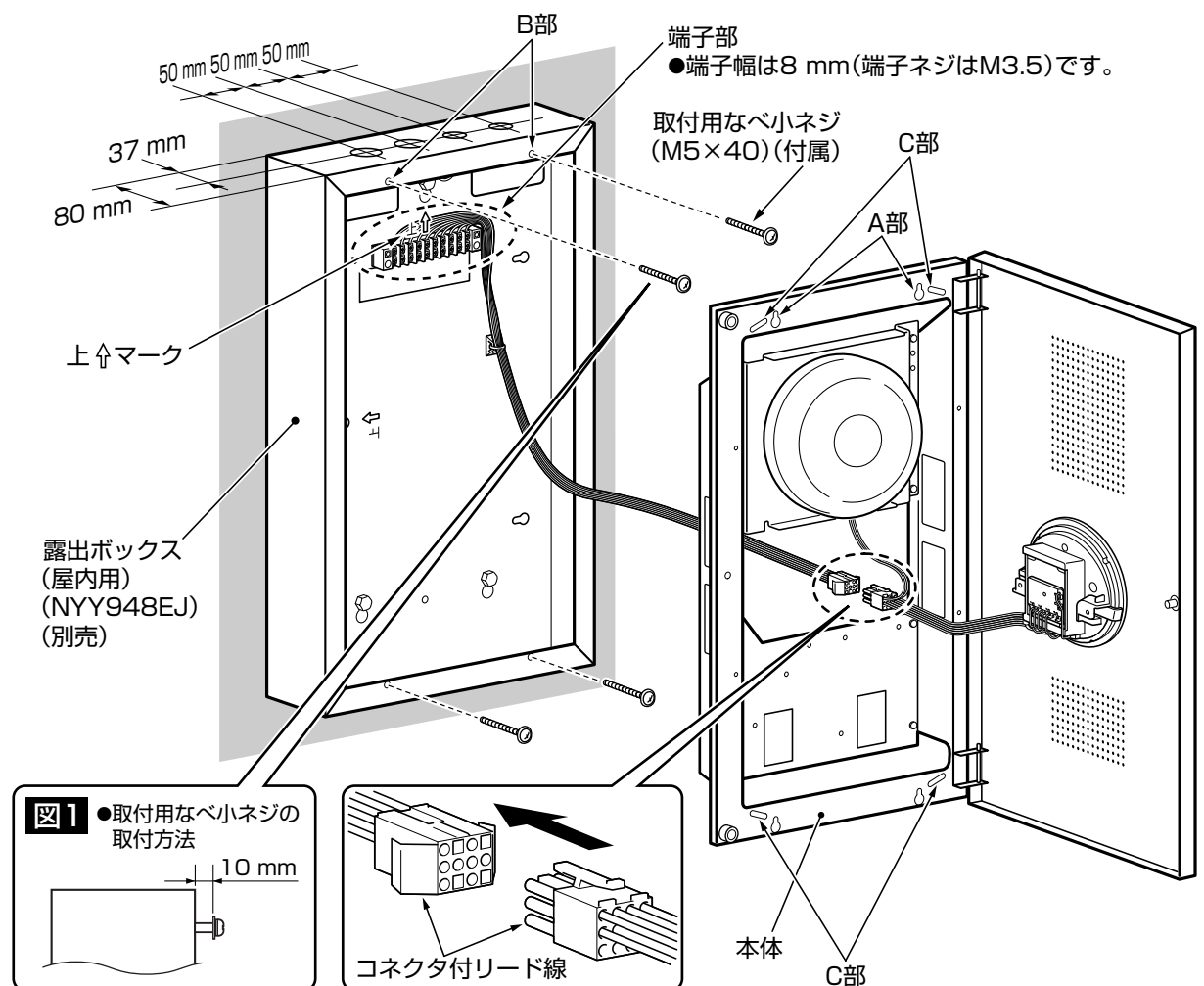
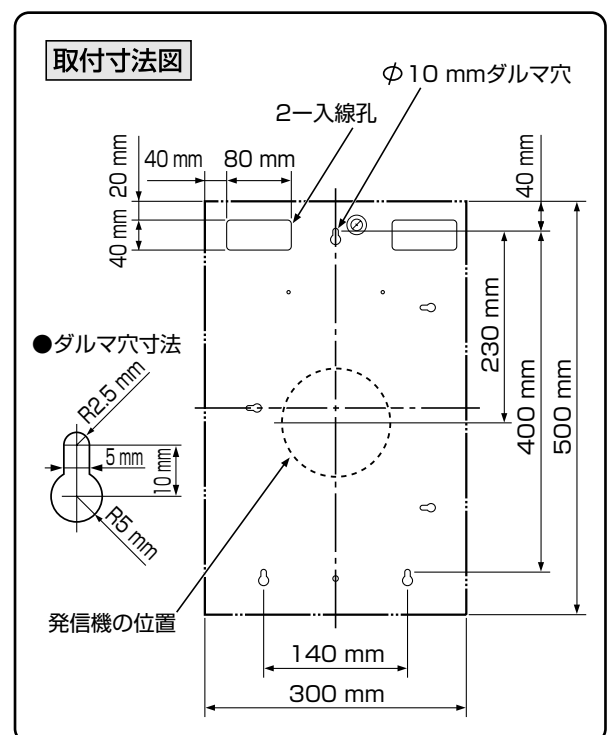
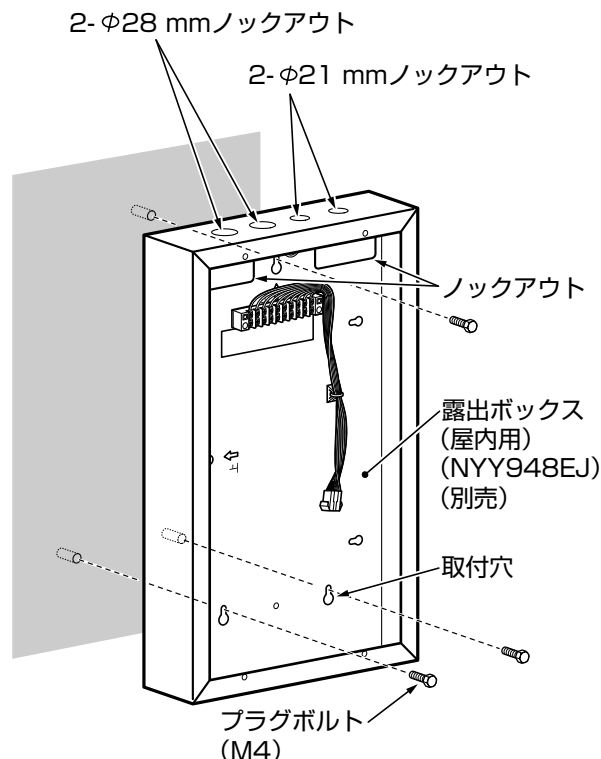
7 本体の扉を開け、A部を露出ボックス(屋内用)(NYY948EJ)(別売)のB部に引っ掛ける。

8 取付用なべ小ネジ(M5×40)(4ヵ所)を締め付ける。

9 配線する。 ※「配線方法」(左記)参照

10 本体のネクタと露出ボックス(屋内用)
(NYY948EJ)(別売)のネクタを接続する。

11 本体の扉をしめる。

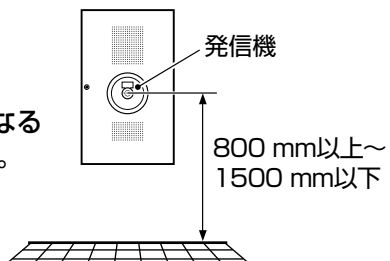


埋込取付の場合

1 取付位置を決める。



発信機の保護板が床面より
800 mm～1500 mmになる
ように取り付けてください。



2 入線をする。

3 右図に示す埋込ボックス(屋内用)(NYY948FJ)(別売)の
ノックアウトをあける。

4 上下方向を間違わないように埋込ボックス内の上↑マークを上にして、埋込ボックス(屋内用)(NYY948FJ)(別売)を取り付ける。



床面に対して、垂直になるように取り付けてください。
傾斜角度が大きいと本体の扉の開き方が悪くなる場合があります。

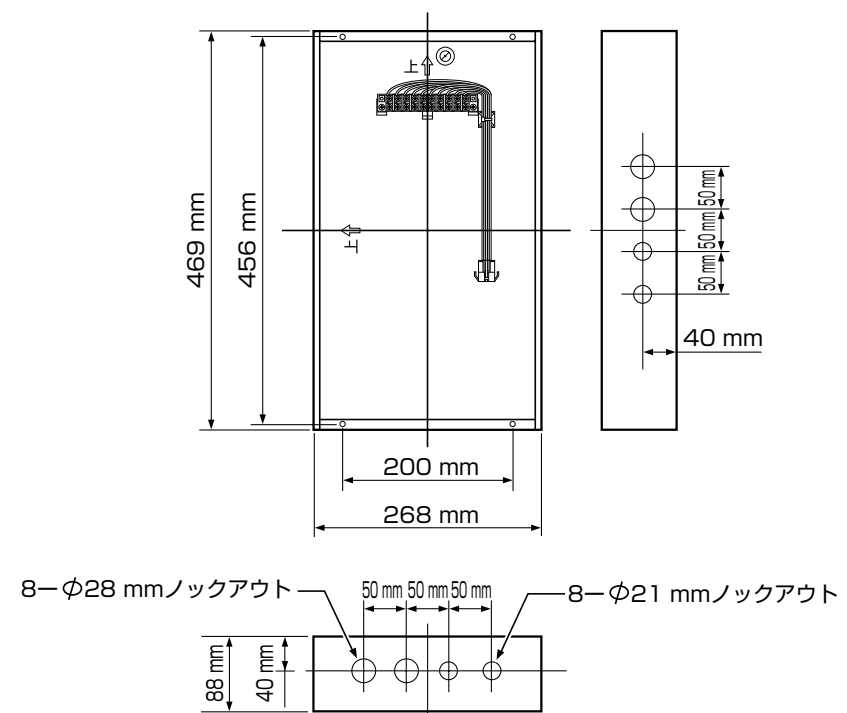
5 付属の取付用なべ小ネジ(M5×40)で本体のC部に通し
本体と埋込ボックス(屋内用)(NYY948FJ)(別売)を固定する。

6 配線する。 ※「配線方法」(左記)参照。

7 本体のコネクタと埋込ボックス(屋内用)(NYY948FJ)(別売)のコネクタを接続する。

8 本体の扉をしめる。

寸法図 ●埋込ボックス(屋内用)(NYY948FJ)



小型総合盤の取付方法

● [PX] 小型総合盤 ・ [RX] 小型総合盤の取付方法も同じです。

- 注**
- 屋外用は、雨線内(内線規程105-1)にてご使用ください。
 - 屋外用は、取付時に水抜き穴をコーキングしないでください。故障の原因となります。
 - 取付用なべ小ネジに付属のφ16 mmのワッシャを取り付けて使用してください。

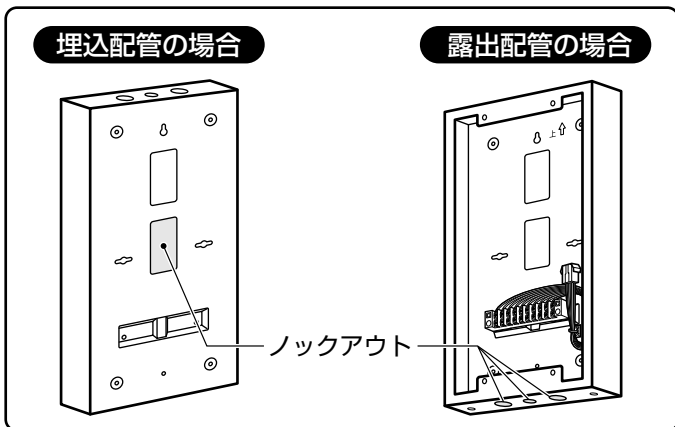
露出取付の場合

- 注**
- 図は屋外用の取付方法を示します。屋外用でない場合は、露出ボックスは露出ボックス(小型・屋内用)(NYY949EJ)を使用してください。

1 取付位置を決める。

- 注**
- 発信機の保護板が床面より800 mm～1500 mmになるように取り付けてください。

2 下図に示す露出ボックス(小型・屋外用)(NYY950EJ)(別売)のノックアウトをあける。



- 注**
- 屋外用は□のノックアウトをご使用ください。

3 取付用プラグを打ち込む。

- プラグボルト(M4)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は取付寸法図を確認してください。
- 中央上部のプラグボルトは露出ボックス取り付け時の位置決め用としてご利用ください。

4 入線をする。

5 上下方向を間違わないように、露出ボックス内の上↑マークを上にして、露出ボックス(小型・屋外用)(NYY950EJ)(別売)を取り付ける。

- 注**
- 床面に対して、垂直になるように取り付けてください。傾斜角度が大きいと本体の扉の開き方が悪くなる場合があります。

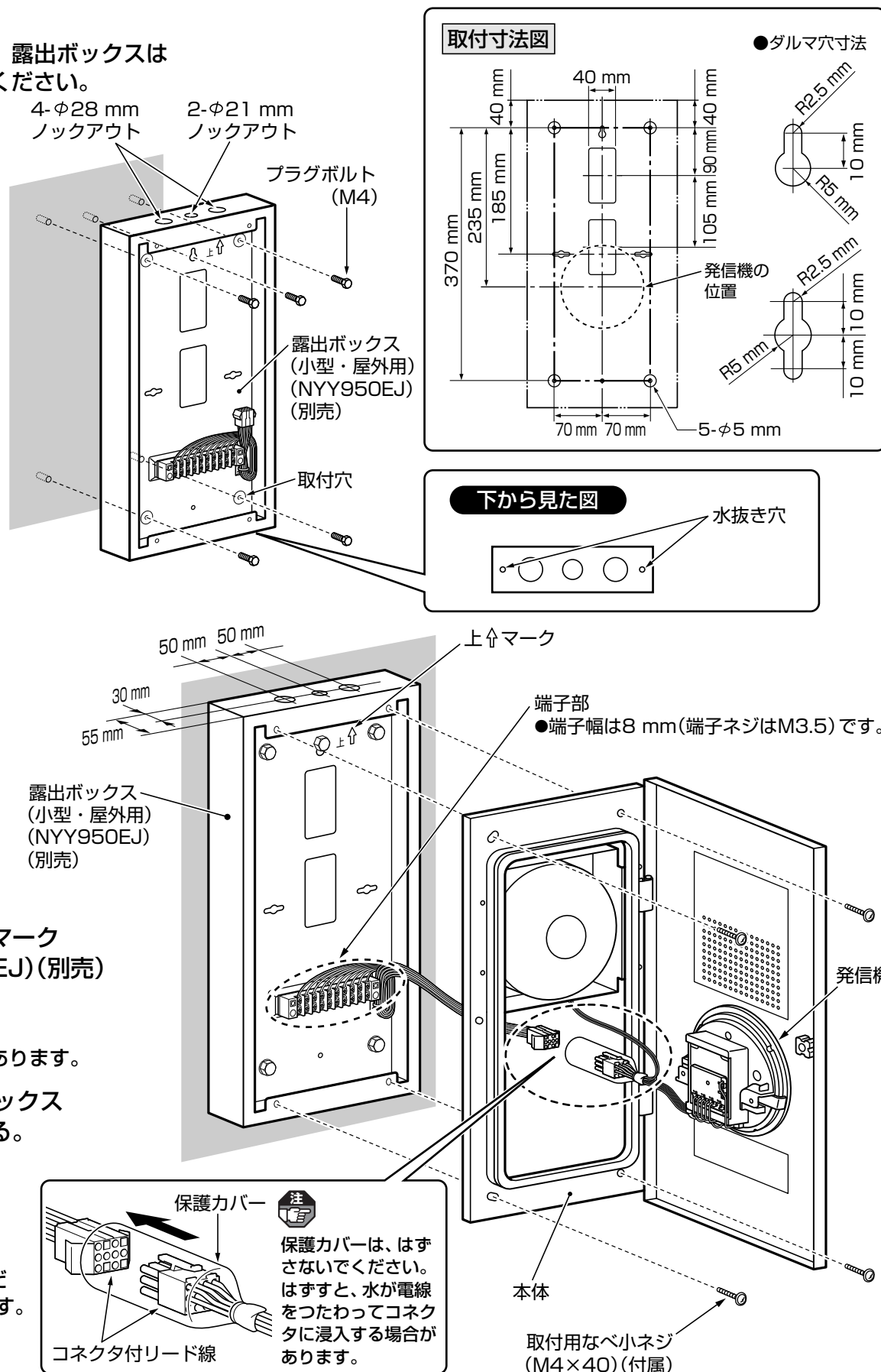
6 付属の取付用なべ小ネジ(M4×40)(4ヵ所)で露出ボックス(小型・屋外用)(NYY950EJ)(別売)に本体を固定する。

7 配線する。 ※「配線方法」(表面)参照

8 本体のコネクタと露出ボックス(小型・屋外用)(NYY950EJ)(別売)のコネクタを接続する。

- 注**
- コネクタ付リード線が端子部にのり上げないようにしてください。のり上げると、発信機裏面と接触するおそれがあります。

9 本体の扉をしめる。



埋込取付の場合

1 取付位置を決める。

- 注**
- 発信機の保護板が床面より800 mm～1500 mmになるように取り付けてください。

2 入線をする。

3 右図に示す埋込ボックス(小型・屋内・屋外用)(NYY949FJ)(別売)のノックアウトをあける。

4 上下方向を間違わないように、埋込ボックス内の上↑マークを上にして、埋込ボックス(小型・屋内・屋外用)(NYY949FJ)(別売)を取り付ける。

- 注**
- 床面に対して、垂直になるように取り付けてください。傾斜角度が大きいと本体の扉の開き方が悪くなる場合があります。

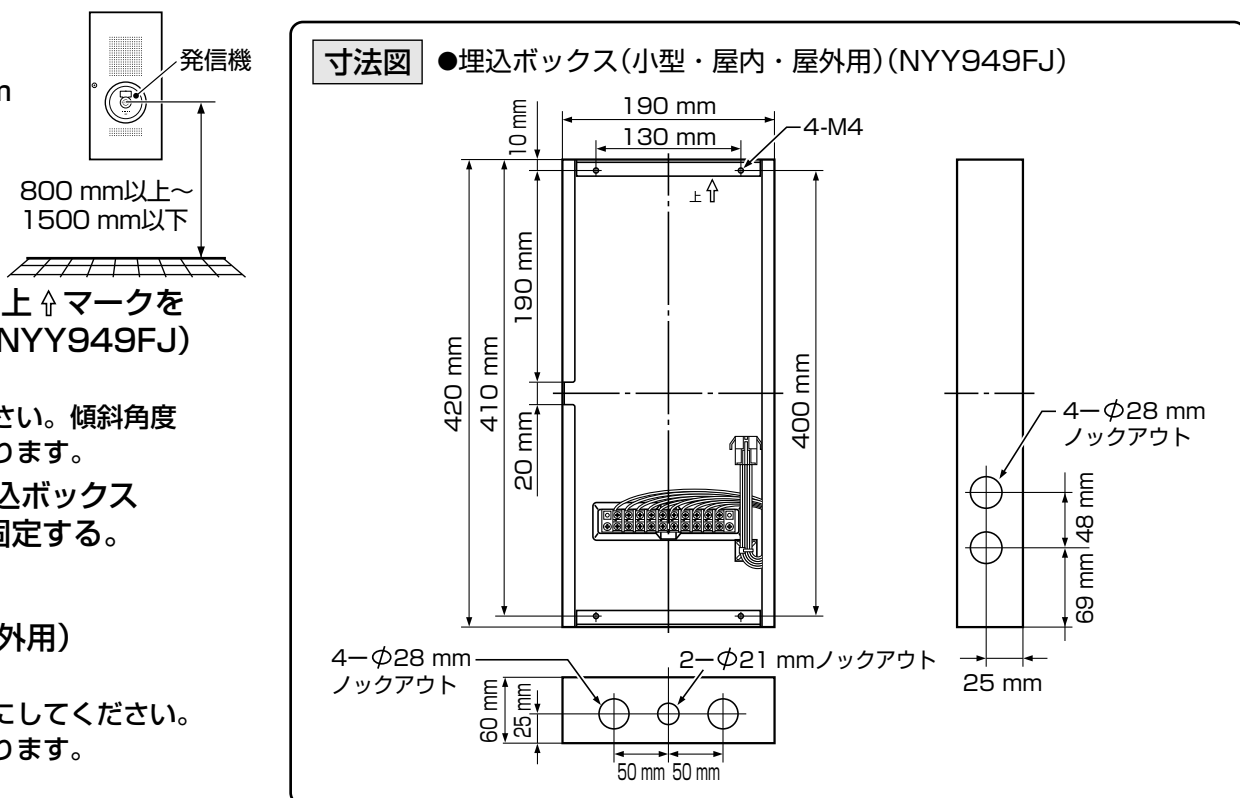
5 付属の取付用なべ小ネジ(M4×40)で本体を埋込ボックス(小型・屋内・屋外用)(NYY949FJ)(別売)に固定する。

6 配線する。 ※「配線方法」(表面)参照。

7 本体のコネクタと埋込ボックス(小型・屋内・屋外用)(NYY949FJ)(別売)のコネクタを接続する。

- 注**
- コネクタ付リード線が端子部にのり上げないようにしてください。のり上げると、発信機裏面と接触するおそれがあります。

8 本体の扉をしめる。



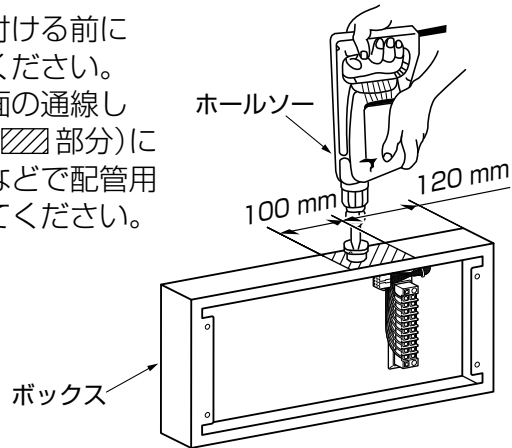
横向きに取り付ける場合



小型総合盤防雨型は横向きに取り付けることはできません。雨水の浸入により誤作動・故障の原因となります。

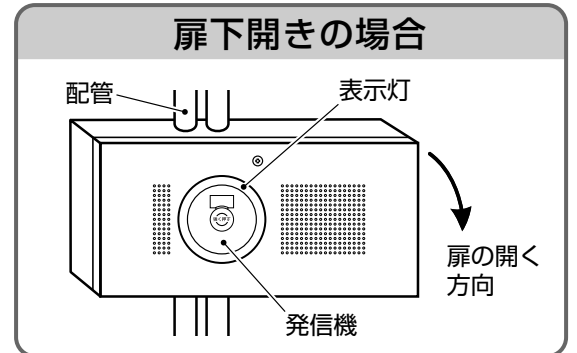
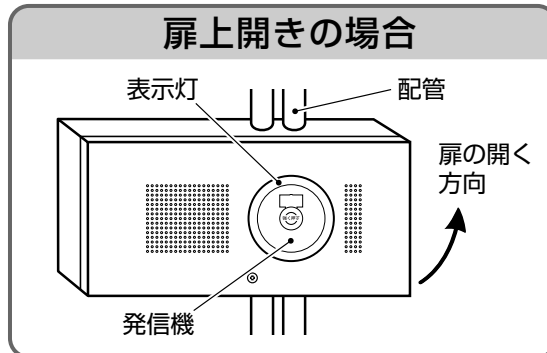
露出配管する場合

- 本体を取り付ける前に穴加工してください。
- ボックス側面の通線しやすい箇所(斜線部分)にホールソーなどで配管用の穴をあけてください。



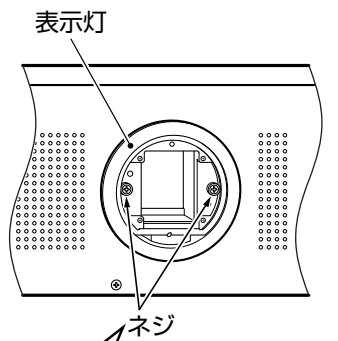
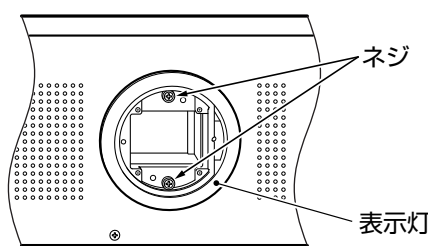
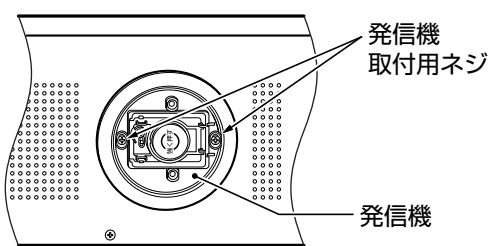
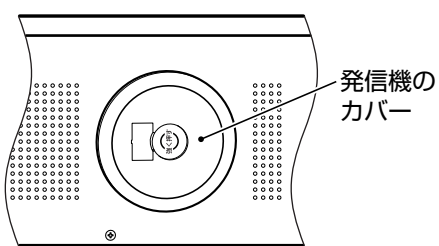
ボックス・本体の壁面への取り付け

- ボックスはどちらの方向でも取り付けができますが、表示灯・ベル・発信機の位置と、扉の開く方向が逆になりますので、ご注意ください。

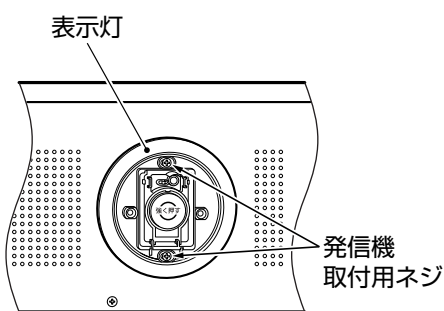


発信機の付け替え

- 1 発信機のカバーを取りはずす。
※はずし方は、「発信機のカバーの取りはずし方・取り付け方」を参照してください。
- 2 発信機取付用ネジ(2本)をゆるめて、発信機をはずす。
- 3 表示灯のネジ(2カ所)をゆるめて、表示灯をはずす。
- 4 表示灯を取り付ける。

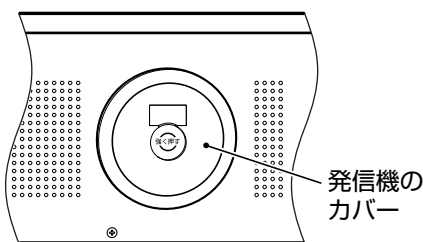


- 5 発信機を発信機取付用ネジ(2本)で表示灯に固定する。



- 6 発信機のカバーを取り付ける。

※取り付け方は、「発信機のカバーの取りはずし方・取り付け方」を参照してください。

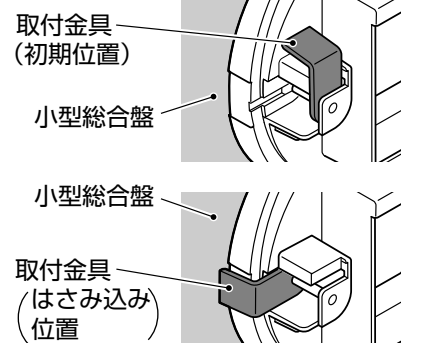


- 1 取付金具が初期位置になっていることを確認する。
- 2 表示灯を90°回転させて加工穴にはめ込む。
- 3 ネジ(2カ所)を回し、固定する。
● 取付金具が外向きに90°回転します。



取付金具がはさみ込み位置にならないときは、一度左に回し、取付金具をゆるめてください。

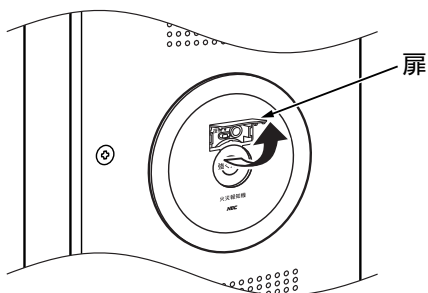
●表示灯の裏面



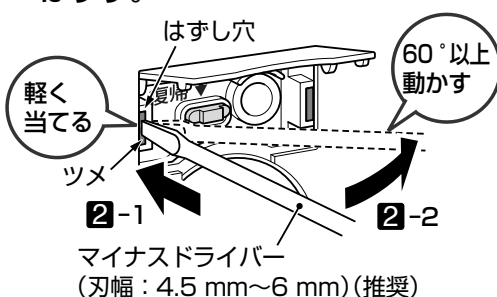
発信機のカバーの取りはずし方・取り付け方

取りはずし方

- 1 扉を上へあげる。

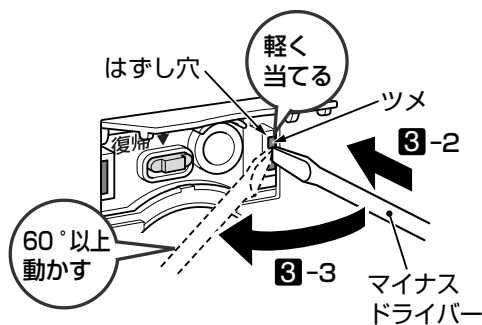


- 2 はずし穴へマイナスドライバーを軽く当て、マイナスドライバーを商品の中心方向に動かしてツメをはずす。

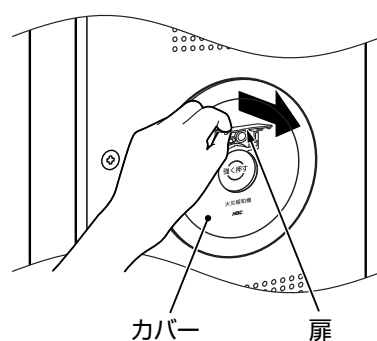


※ マイナスドライバーは軽く当てる程度にしてください。強く押し込むとツメが破損します。

- 3 もう一方も手順2と同様にツメをはずす。



- 4 扉を引っ張りながらカバーをはずす。



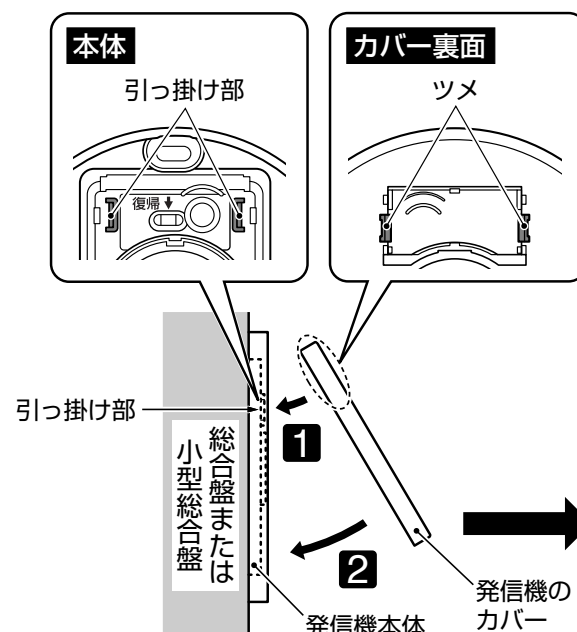
※ 無理に引っ張るとはずれる場合があります。

取り付け方

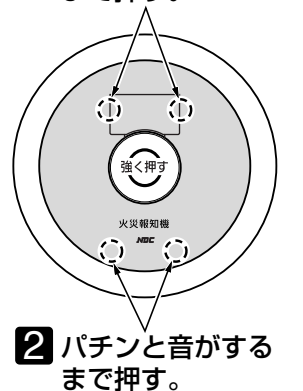
発信機のカバーを発信機本体に取り付ける。

- 発信機本体と発信機のカバーの上下方向を合わせ、パチンと音がするまで押して取り付ける。

※ 取り付け後、発信機本体に対して発信機のカバーが浮いていないことを確認してください。浮いている場合は、発信機のカバーの発信機本体への取り付けをやり直してください。落下するおそれがあります。



- 1 パチンと音がするまで押す。



- 2 パチンと音がするまで押す。

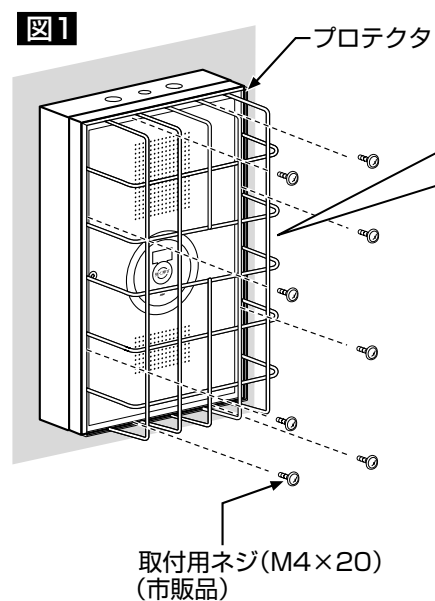
プロテクタ(別売)の取付方法

注 露出取付、埋込取付とも取付方法は同じです。

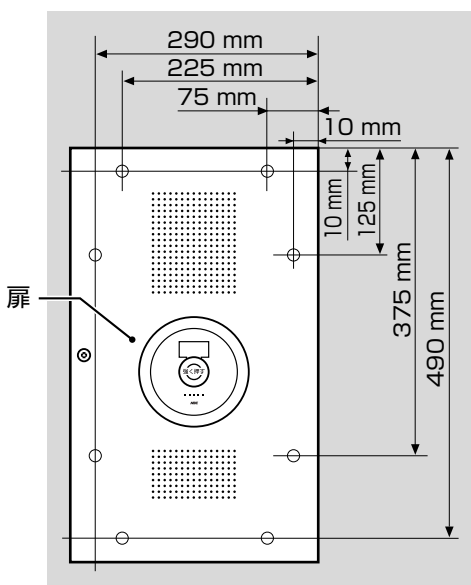
総合盤

- パナソニック(株)製プロテクタ(総合盤用)(オプション)をご使用ください。
(露出型付・埋込取付とも同じです。)

注 プロテクタには取付方向がありますので、**図1**のように取り付けてください。



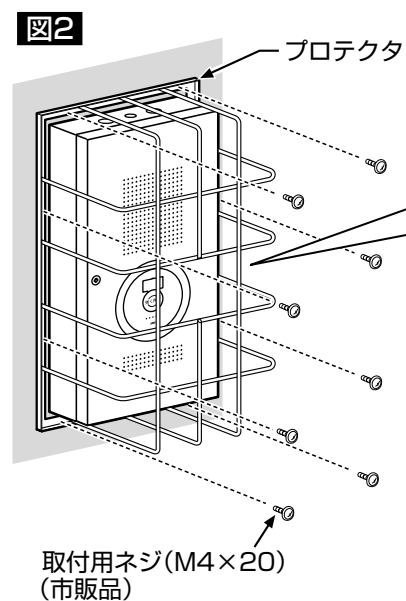
取付寸法図



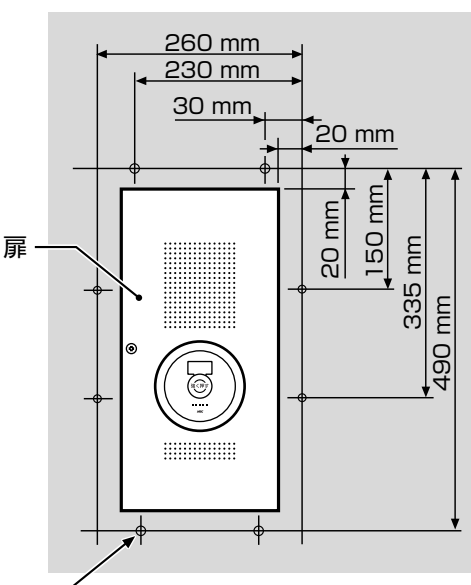
小型総合盤

- 露出取付の場合：パナソニック(株)製プロテクタ(小型総合盤 露出型用)(オプション)をご使用ください。
- 埋込取付の場合：パナソニック(株)製プロテクタ(小型総合盤 埋込型用)(オプション)をご使用ください。

注 プロテクタには取付方向がありますので、**図2**のように取り付けてください。



取付寸法図



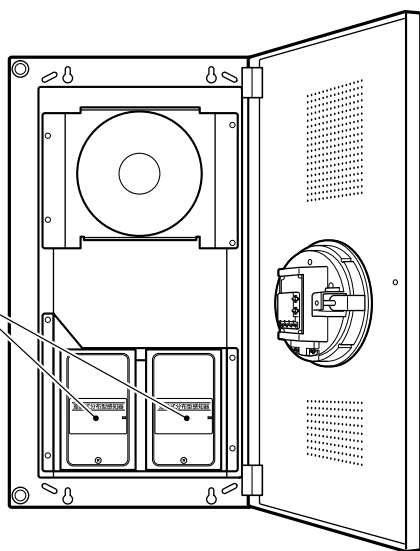
総合盤に差動式分布型感知器(空気管式)を取り付ける場合

1 差動式分布型感知器の引込穴より電線、空気管を引き込む。

2 差動式分布型感知器を付属の取付用なベタツピンネジ(M4×16)で本体の底板に取り付ける。

注 差動式分布型感知器の取付穴位置を確かめてから取り付けてください。

差動式分布型感知器

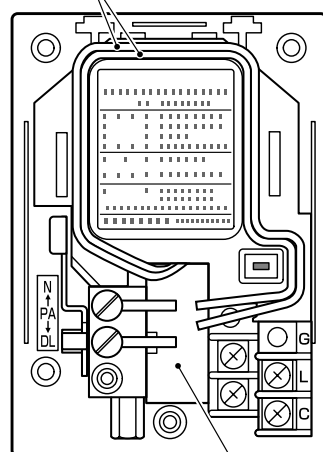


3 空気管を図のようにまわし、余った空気管を切断する。

注 切り口がつぶれないよう注意してください。

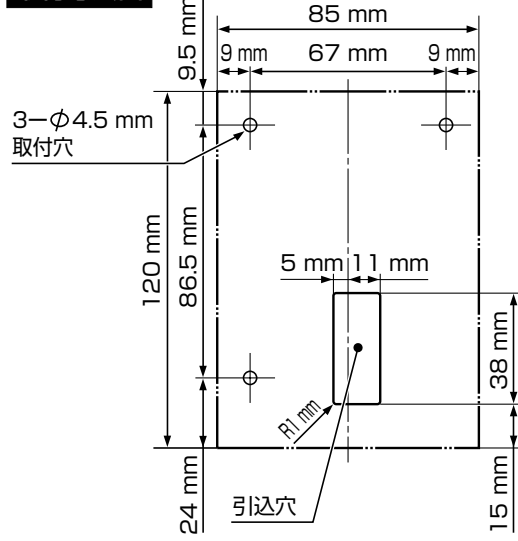
●差動式分布型感知器

空気管(1周まわす)

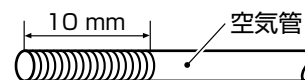


引込穴

取付寸法図



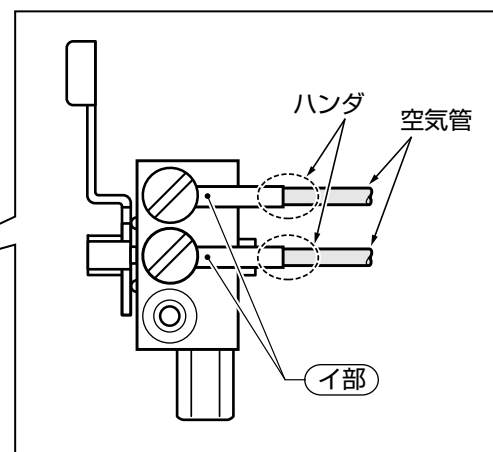
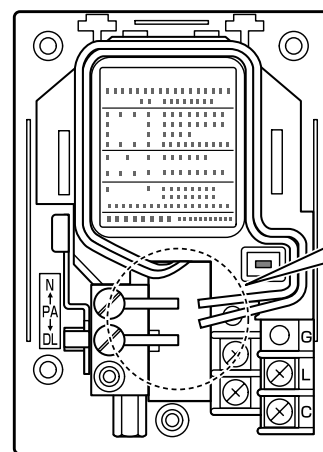
4 先端の塗装を約10 mmはがす。



5 空気管を **イ部** に接続し、接続部分をハンダ付けする。

注 空気がもれないよう十分にハンダを盛ってください。

●差動式分布型感知器



6 電線を端子(L、C)に接続する。